

志高く

～ 世のため人のために尽くす ～

理事長 佐藤大悟

はじめに

戦後間もない1949年に東京青年商工会議所が設立され、日本に於ける青年会議所運動の灯がともり、1951年、日本青年会議所が誕生しました。当時は、サンフランシスコ講和条約調印以前で、まだ日本国民の海外渡航自体が非常に厳しく規制されていた時代でした。そのような厳しい状況の中で青年たちが目指したのは、国際社会への復帰の先駆けとして、海外の青年起業家国際組織であるJCIへの加盟という困難な道のりでした。

JCIへの加盟のため、さまざまな規制や困難を乗り越えて参加した1951年のJCI世界会議モントリオール大会総会にて、当時JCI会頭であったフィリピンJC出身のラモン・ロザリオ氏は、次のような言葉をもって、日本JCを温かく迎えてくれました。

「…JCには、国境も民族もない。それは、全世界の青年のものである。その誇りにおいて、われわれはいまここに、かつての敵国日本の、JC代表団を心からなる歓迎をもって迎えようとする…」

ここに日本青年会議所はJCIへ正式に加盟し、日本の民間団体として国際社会への復帰を、戦後最初に実現させたのです。第二次世界大戦後の混乱をのりこえて、明るい豊かな社会を自分たちの手で築き上げたい、と立ちあがった青年たちの志が世界を動かした瞬間でした。日本の青年会議所運動はここから始まっています。

時は移り1960年、福山を想う青年たちの手により福山青年会議所は創立されました。

「青年独自の立場から社会の奉仕を促進具現せしめ更に目的を同じくする国内及び世界の有識青年層との連携を密にし、社会の進歩、経済の繁栄、人類の平和的幸福を達成することを目的として福山青年会議所を創立せん」（福山青年会議所創立趣意書より一部抜粋）我がまち福山の発展を心から願い、明るい豊かな社会の実現という高い志を持って始まった運動は、今も変わることなく続いているのです。

時代は変わり環境は違えども、志を同じくして集まる青年たちが課題に対して真剣に議論し、行動するからこそ世の中を変える大きな力となり、明るい豊かな社会が築けるのです。創立の時より連綿と受け継がれてきた変わらぬ志と青年だからこそ持つ若い感性で、失敗を恐れずに地域の未来を切り拓いてまいりましょう。

地域をつなぎ、広域的な発展をつくる

現在の日本を取り巻く問題として人口減少や少子化・高齢化の進行が挙げられます。我がまち福山においても国立社会保障・人口問題研究所による将来推計では、総人口は2010年をピークに減少に転じ、2040年には40万人を下回るところまで減少すると見込まれ、人口減少は避けられない問題です。そして、地方都市では首都圏への一極集中で人口が流出していることも人口減少の大きな要因となっています。こうした中、福山市は2014年に福山市行政運営方針を策定し、人口減少社会におけるまちづくりの考え方を示しました。2015年には備後圏域の連携中枢都市として、5市2町（三原市、尾道市、府中市、世羅町、神石高原町、笠岡市、井原市）とともに、人口減少社会を見据えた地域づくりを進めるため、びんご圏域ビジョンを策定し、新たな広域連携に着手しています。

我々も福山青年会議所の持つネットワークを活かして、行政と連携し、地域間で有益な情報を共有することで、我々が中心となり魅力ある地域間連携を創り上げましょう。

福山青年会議所が関わっている広域連携事業の1つであるロマンチック街道313が今年で記念すべき30回目を迎え、この記念すべき年に我々が主管いたします。ロマンチック街道313の事業は、倉吉から福山までの国道313号線上にある5つのLOMがブロック協議会の垣根を越えて、国道313号沿線にあるそれぞれの地域の魅力を持ち寄り、伝えていくためにツーリングを主な柱として構築してまいりました。先輩方がつくりあげられてきたこの事業は、今後、自立した経済圏を維持することが難しくなるという現在の地方都市が抱える問題を複数のまちが連携して交流人口を増加させる取り組みを行うことで地域経済を促進させ、力を合わせて解決するという可能性を示しています。単独のLOMでは成しえない、複数のまちと青年会議所が連携するからこそ発揮される多くの魅力と大きな発信力を活かして、まちの人々が交流を盛んに行うことの出来る機会を創出し、地域の活力を向上させてまいりましょう。

まつりづくりはまちづくり

「まつりづくりはまちづくりである」この言葉は、私がまつり企画実行委員長を務めさせていただき中、時とともに強まり今では確信に変わっています。福山市内には、福山が大好きで、更に福山を盛り上げたいと考えている方々が数多くいらっしゃいます。まつりは、1つの方向へ向けて個人のエネルギーを束ねて、地域を発展させていくための大きな可能性を持っているのです。その可能性を確実な力へと変えるべく、我々が中核となり人と人、組織と組織を結び付けながら、福山のまちの魅力をつなぎ発信していくための大きな流れをつくりあげてまいりましょう。

福山青年会議所には、行政、企業、市民とともにまつりを通じて地域を発展させていく大きな機会として、ばら祭があります。福山の明るい未来を創るための仲間を増やし、行政との関係を円滑にしてカウンターパートとして様々な課題へと取り組んでいけるようにもっと有効活用してまいりましょう。そして、関わった全ての方々が福山を好きになってもらえるすばらしいまつりを創り上げてまいりましょう。

地域に価値をもたらす組織であるために

福山青年会議所では近年、会員減少が続き 2015 年には会員が 100 名を切ってしまいました。会員減少に対して危機感を持った当時の会員拡大実行委員会は 2016 年に拡大ロードマップを作成しました。しかし、そのロードマップを理解して、本気で取り組んでいるメンバーはどれだけいたのでしょうか。会員拡大に一人ひとりが意識をして全員で取り組まないとなれば成功はあり得ません。そして、会員拡大をするためには、取り組む一人ひとりが、自分がなぜ青年会議所に所属しているのか。その魅力を自分自身で納得した上で、広く周りの方々へと伝えることができなければならないのです。

青年会議所の最大の運動の 1 つは地域社会に対して、より良い変化をもたらすことの出来る人財を生み出すことです。まちを発展させるために最も良い手法を計画して、真剣に議論し、運動を発信する。それが個人の成長へとつながり、得難い友情をも手に入れる。そのようなサイクルの中で生まれた人財だからこそ、その人財が多ければ多いほど運動の輪が広がり、まちの発展へとつながる大きな力を生み出します。そのために私たちは会員拡大に今一度、真摯に向き合う必要があるのです。

福山青年会議所が地域にとって新たな価値をもたらす組織であり続けるために全力で会員拡大に取り組んでまいりましょう。

福山をつなぎ、まちの未来を描く

他の地方都市と同じく人口減少を背景とした経済規模縮小は、我がまち福山にとっても解決しなければならない問題です。その問題に対して、近年、福山青年会議所はまちを持続的に発展させていくために常に向き合い続けてきました。その中で、福山というまちには、福山を盛り上げるために何か力になりたいと願う人々や鞆の浦や福山城をはじめとする観光資源、地域を支えている活力ある産業、スポーツを通じての魅力形成など限りないポテンシャルがあることを確信しています。しかし、そのポテンシャルもそれぞれがバラバラに発信しては、力が分散してしまい大きな力を発揮することはできません。地域のために活動したいが何をすれば良いのかわからない人々や企業、各種団体同士や行政などをそれぞれの立場を超えて、力をつなぎ同じベクトルへと向けることで確実にまちを発展させることができます。その役割を我々福山青年会議所が中心となって行うことで、福山に

多くの人々が訪れ、まちに住みたくなる選ばれるまち福山の創造に本年も邁進してまいります。

福山市のシンボルである福山城は 2022 年に築城 400 年を迎え、行政においても様々な事業を企画しています。福山市としての大きな 1 つの節目の年に向けて、我々としてもどのように発信していけば、まちの魅力を効果的に伝えることが出来るのかを今一度、市民の方々とともに考える必要があります。まちが発展していくためには、まちの未来を選択するのは自分自身であることを市民一人ひとりが認識して、まちの未来を描いていくことに責任をもって関わり続けなければなりません。また、特に若い世代に自分たちのまちづくりへの参画意識が高まれば高まるほど、明るい豊かな福山につながるということを意識させていかなければなりません。戦後復興より先人が築き上げてこられたこのまちの成り立ちに誇りを持ち、溢れんばかりにあるまちの魅力に自信を持ち発信してまいりましょう。そして、一人ひとりがまちの未来を創り出すために力を発揮出来る 2022 年に向けて行動を起こしてまいります。

メンバーシップを高め、組織の未来をつくる

40 歳で卒業を迎え、限られた時だけしか所属することのできない組織を持続していくためには、新たな息吹をもたらすことで組織に活力を生み出していく必要があります。そして、脈々と繰り返されてきたその新陳代謝を続けていることが、若々しく強い組織としての青年会議所を保っているのです。

では、青年会議所の魅力とは何でしょうか。それは 1 年ごとに役割が変わる中で、新たな役割に挑戦することで得る成長の機会にあると考えます。そして、青年会議所での活動で得られる成長の機会とは、志を同じくする仲間と切磋琢磨することで人間力を磨いていくものです。それは、実際に活動する中で失敗と成功を繰り返すことによって自らで掴み取るもので、単に自身の成長や自社の利益を求めてセミナーを受講することによって得られるものとは全く違うものです。だからこそ、青年の貴重な限られた時間を費やしてでも活動する意味があるのです。この価値観に共感出来る人財を見つけ、ともに切磋琢磨することでお互いを高め、志高き次世代の Jaycee を育成しましょう。

まちを発展させていく組織をつくるためには、様々な場面でリーダーとなれるように個々のメンバー自身が率先して学ぶことも必要です。そのために経営に関する考え方や新たな技術に関しての知識、正しい歴史観や日本の政策についてなど幅広い見識を持つことが出来るように情報を発信、共有する場を創ります。その情報の中から、まちのために役立てることを常に模索し、我々と地域の方々とともに学び、ともに考えることで、まちの

発展へとつなげてまいりましょう。

また、強い組織の輪をつくるためには、膝を突き合わせてメンバー同士が話し合い、懇親を深めることも必要です。そして、何よりメンバーが地域のために各地を飛び回り活動ができているのも周囲の支えがあるからです。今一度、自分の周りを見渡してみましょう。そこにはきっと自分の家族やパートナーの助けがあるはずです。あたり前だと思っけてもなくてはならない大切なもの、本年は家族やパートナーへの感謝の気持ちを伝える場をつくってまいります。

夢を描ける人財を育成し、未来への架橋を構築する

人格形成期に受けた強いインパクトは、子供達の将来に大きな影響を与えます。それはすなわち、子供達が素晴らしい体験をすることは地域の明るい未来にもつながるということなのです。近年、福山青年会議所は真の国際人を地域に増やしていくために運動を展開してまいりました。その運動は、まちの未来をつくる人財となってもらうために、自分自身の住み暮らす地域、そして日本という国に自信と誇りを持ってもらうこと。そして、日本人としての美德である他人を尊重する心を持って、他国との文化の違いを理解し、その上で積極的により良い関係を築いていくことでした。つまり、真の国際人を増やすことは、国際化が進む中で福山が発展していく可能性を高めるのです。

未来の担い手である子供達が地域に誇りを持ち、相互理解と友情を深めることを目的として、2014年より始まったアジア少年少女国際交流事業 in 福山。2017年には関係団体と手を携え、福山国際子どもアカデミーとして進化・発展してまいりました。本年は、今までの福山青年会議所が主体となり事業を担って学校やボランティアへと協力してもらう形から更に地域の国際化を推し進めていくことを目指します。そのために行政や企業、他団体をはじめとして、より多くの人々を巻き込み運動を展開していくことが出来るように運営を外部団体へと移行します。

我々は引き続き、福山国際子どもアカデミーに参画することで、魅力を伝えて福山のファンづくりを行うとともに真の国際人となるべく海外との交流を積極的に行うことの出来る子供達を育成してまいります。そして、学校訪問授業を通じて未来を担う子供達が自分の住み暮らす地域に誇りを持ち、夢を描き挑戦する人財となれるように可能性を引き出してまいります。

青年会議所の活動は自分たちの住み暮らすまちのみで終わるものではありません。他の地域で運動を展開している青年会議所のメンバーと交流を行うことで、自分たちのLOMやまちのために有益な情報を得て発展するからこそ、まちの明るい未来を創り上げることが出来るのです。そのために、各種大会や諸会議へと積極的に参加して、それぞれの文化や

まちへの取り組みを知り、新たな学びを持ち帰りましょう。また、出向することで別の地域の同志たちとともに1つの課題に向き合い、運動を展開していくことは出向者を成長させ、LOM にとっての財産となって還元されます。LOM を背負って出向しているメンバーの活躍を発信し、出向先の事業へと駆けつけることで、力強くサポートしていきましょう。

我々、福山青年会議所は地域の方々へ向けて、ともにまちを発展させることを目的に、成長するための機会を提供しています。ですが、果たして事業の目的や内容は人々への的確に伝わっているでしょうか。どんなに良い事業を行っていても必要とする方々へ伝わっていなければ、事業の効果は発揮されることはなく、目的を達成することもできません。今やテレビ、新聞、雑誌での発信しかなかった時代から、IT 技術の進歩によって個人が情報を気軽に発信出来る時代となり、情報発信を行う環境は劇的に変化しました。我々は、多くの情報発信の手法がある中で、どの発信方法が最適なのかを検討し、必要な人に必要なタイミングで効果的な広報を行ってまいりましょう。それが、福山青年会議所が多くの賛同者を得るとともに、明るい福山の未来を創るために人々がまちづくりへ参画することにつながる魅力的な発信となるのです。

青年会議所運営の根幹を支える

福山青年会議所の例会は、月に1度組織の目指すべき運動の方向性を確認し、メンバーどうしの親睦を図ることで、活動の源となる大切な場です。だからこそ、例会は入念に準備し、慎重に設営を行い、手順どおりに厳粛かつ円滑に開催されなければなりません。そして、そのように重要な場だからこそ例会に出席することはメンバーの大切な義務なのです。メンバーが例会に出席することで、組織としての団結ができ、新たな運動を展開するための情報交換が行われます。そのことを一人ひとりが自覚し、ただ例会に出席するだけではなく、自分自身と組織にとっての新たな学びと可能性を得るために積極的な姿勢で臨みましょう。その姿勢が全ての成長と発展につながるのです。

また、1つの事業を行うことに対して、なぜこの事業が必要なのかという背景、誰のために何のために行う事業なのかという目的、課題を解決するために正しい方法がとられているかという手法をとことんまで追求し、会議を行っていく。この積み重ねが地域の発展に貢献出来る事業へと価値を高めているのです。この会議こそが青年会議所が他の組織に対しても誇ることが出来るシステムなのです。私たちはこの会議の伝統を引き継ぎ、激しい議論の中にも厳粛さをもって、1つ1つの準備を確実に行ってまいりましょう。

おわりに

「世のため人のためになること」を成すのが、人間として最高の行為であり、自分の人生はそのためにあるのだと信じて生きてきたつもりです。それが私のいう大義です。

これは経営の父と言われる稲盛和夫の言葉です。私はこの言葉に感銘を受けました。人は、世のため、そして人のために何かをしたいという善の気持ちを元々備えているもので、人間が持つ自然な心の働きです。しかし、放っておけば利己に傾いてしまうために、利他であろうと懸命に日々努力していかなければならない。そして、他人のために何かをする、尽くすことは他人に利するだけでなく、めぐりめぐって自分を利することになる。この考え方は、自分たちの住み暮らす地域のために運動を展開する中で、結果として自己成長している青年会議所の活動にも通じる大切なものであると強く感じました。

明るい豊かな社会の実現を目指す青年会議所での活動は、青年という限られた時にだけ許されるものです。卒業した時にやり残したことがあったと後悔しても取り戻すことはできません。だからこそ、世のため人のために尽くす高い志を持って、それぞれのメンバーがその時に自分が出来る全力で取り組んでまいりましょう。自分自身に出来る最善の行動は何かを悩み、不安を抱えながらも挑戦し、それぞれの立場で全身全霊を尽くすことは、結果として自己成長につながります。そして、メンバーが高い志を持って活動すれば、組織を活性化し、周囲を巻き込んで、ついにはまちの未来をも変えていくのです。

志高く、挑戦しよう。偉大な先人から受け継がれてきた今というときを大切に、福山の未来を創り上げていくために。